

活用ナビ

①【ねらい】日本の農産物や生産物の主な産地を知り、日頃食べている食料に関心をもつ。

②● 題と出典を読みましょう。
● 土地利用で田は何色ですか。(同様に、畑、果樹園、牧草地、その他)を確認する。

③● 写真の食料を確認します。左上から言いましょう。
(りんご、ねぎ、牛肉、トマト、ぶた、みかん)
● 教科書の、それぞれの食料のイラストを丸で囲み、生産量の多い都道府県を表に書きましょう。
● 書き終わったら、どこの都道府県か全員で確認します。
りんごはどこですか。(他の食料も同様)

④● それぞれの食料はどこが多そうといえますか。理由を予想しましょう。
● 発表しましょう。

⑤● 同じように、表以外の食料についても、生産量の多い都道府県を調べましょう。

⑥● さまざまな食料の産地で、気づいたことをノートに書きましょう。

2 未来を支える食料生産 全国からとどく食料

①【ねらい】日本の農産物や生産物の主な産地を知り、日頃食べている食料に関心をもつ。

②【基本】資料7「主な食料の産地」を見よう。
・題と出典を読む。
・田、畑、果樹園、牧草地の色を確認しよう。

③【ポイント】写真の食料の産地を調べよう。
・写真の食料を丸で囲み、多い都道府県を表に書こう。

④どこが多そうといえるか、理由を予想しよう。 ※ヒント：気候や土地利用

食料	生産量の多い都道府県 (教科書に丸をする)	どこが多そうか(予想)
りんご	青森、山形、長野	気候がすずしいところ
ねぎ	茨城、埼玉、千葉	関東地方、人口が多いところ 土地利用で畑が多い
肉牛	北海道、宮崎、鹿児島	北海道と九州 広い土地があるところ
トマト	北海道、茨城、熊本	日本各地(収穫時期がちがう)
ぶた	千葉、宮崎、鹿児島	九州が多い 肉牛と同じ
みかん	静岡、和歌山、愛媛	暖かい気候のところ

⑤表以外の食料についても生産量の多い都道府県を調べ、ノートに書こう。

⑥さまざまな食料の産地で気づいたことをノートに書こう。

資料の読解

この分布図は、日本の主な食料について生産量の多い都道府県と日本各地の土地利用の様子を示したものである。食料は、生産量の多い3都道府県が各食料のイラストで示されている。ここに掲載されている16種類の食料の多くは、この単元の学習に関わりのあるものが多い。

食料別の生産地に注目すると、その共通点から、生産の特色をうかがうことができる。たとえば、教科書には、児童の発言として「乳牛の生産は、北側の地域に多いね。すずしい気候が向いているからかな。」と産地の特色を予想している。同じように、たとえばみかんは暖かい気候、りんごは涼しい気候のところで生産量が多いことがわかる。また、土地利用の様子から関東には畑が多く、野菜の生産地ということがわかる。これは消費地である首都圏の人口の多さも関係がある。また、都道府県から生産物を見ていくと、北海道には8種類もの生産物が示されており、大規模な食料生産地ということがわかる。

このように、日本の食料生産の傾向について、様々な視点から考えを深めることができる分布図といえる。

読解の方法

- (1) まずは、題と出典を確認する。また、分布図の読み取り方として、土地利用の色についておさえたいうえで、各食料の生産量の多い都道府県が示されている図であることも確認する。
- (2) 続いて、教科書の「やってみよう」のとおり、写真で示されている「りんご」「ねぎ」「肉牛」「トマト」「ぶた」「みかん」の6種類について（上の真ん中の写真には野菜が数種類写っているがここでは「ねぎ」を取り上げる）、イラストを丸で囲ませる。その後、生産量の多い都道府県を表に書かせる。必要があれば、地図帳を見ながら作業をさせる。
- (3) 表の記入を終えた後、答えを確認する。
- (4) 各食料の生産地の共通性から、どこで生産が多いのか予想させる。ここは、知識が十分ではないと思われるので、予想がつくところだけ記させる。気候や土地利用、人口などがヒントになることも伝える。
- (5) 表以外の食料でも同様に活動を行い、ノートに記入させ、学びを広げる。